

も好評を得たと思われるので、ここに発表し皆様の御批判を仰ぎたいと思う。

尚、食器受けの作成に当り、「太陽の家」「福岡技肢製作所」の方々に、御協力を頂いた。

<注> 食器受けの材質

現在使用のしる食器に薄いメリヤス布を数回巻き底に鉛を置き、その上からポリエステル樹脂化工したものだ。 全重量——150g 鉛——80g

2) スライドストレッチャーの使用経験

国立療養所西別府病院

百 武 多津子 茅 野 恵 子
後 藤 スミエ

<目 的>

今回、スライドストレッチャーを使用する機会を得たが、このストレッチャーが従来のもものと大きく異なる点は、①スライドができる。②背もたれが挙上できる。という2点である。そこで、その使用結果についてまとめさらにどのような点に留意すれば、より効果的な活用ができるか検討することにした。

<方 法>

この使用結果をまとめるにあたって、看護者とこのストレッチャーの使用が多かった患者20名に、看護者には機能性を、患者には安楽性を中心にアンケートをとった。

<結 果>

<看護者側>

利点 ① 背もたれを挙上させることにより、患者を抱える時にかかる看護者の腰背部への負担が少ない。

② ストレッチャーの移動が容易にできる。

③ けこみがよいため、患者を抱える時に看護者がストレッチャーに身体を十分密着させることができる。

欠点 ① ベッド間隔が狭いので、スライドの使用が不便である。

② 高さが、ベッドや看護者にとって高すぎる。

<患者側>

利点 ① 乗り心地がよい。

② 背もたれ挙上時、不安がない。

③ 水平より 20° の傾斜のほうが気持ちよい。(プレートの軽い彎曲が快適なためと思われる)

欠点 ① プレートの幅が、やや狭い。

<より効果的活用のために>

① プレートに汚染防止を兼ねたカバーをかぶせ、それに印をつけ、患者を臥床させた時に臀部が定位置になるようにした。

② 背もたれ挙上時、必ずキャスターを固定し、患者が転落しないようにプレートの中央部に臥床させ、ゆっくり挙上させる。

③ 両手で背もたれを挙上させた後、患者を抱え、移動させるとよい。

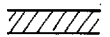
挙上角度は、患者にとっては 20° が快適のようだが、看護者が患者を抱える時は、 45° の角度が最もよい。また、体重の軽い患者でも坐高が 80cm 以上になると背もたれを利用したほうが楽であった。

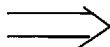
スライドの使用については、今後、ベッド間にストレッチャーがはいり、周囲に十分な余裕があれば多めに活用していきたい。

この背もたれの使用により、看護者の腰背部への負担が、多少なりとも軽減できたことは、このストレッチャーの効果ではないかと思われる。

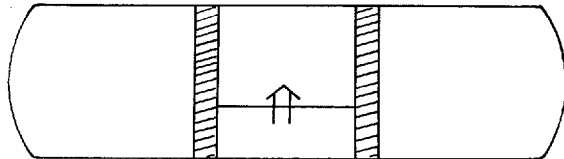
(カバー作製)

図のように、シートに印をつける。

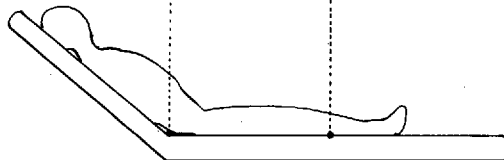
 は、背もたれの屈曲部を示す。

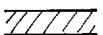
 は、けこみのある側を示し、この方向に看護者が立つ。

上 面



側 面



患者の臀部が、 のやや内側にくるようにのせる。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

<目的>

今回、スライドストレッチャーを使用する機会を得たが、このストレッチャーが従来のものと大きく異なる点は、スライドがてきる。背もたれが拳上できる。という2点である。そこで、その使用結果についてまとめさらにどのような点に留意すれば、より効果的た活用がてきるか検討することにした。